



DHCP サーバの設定

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバを使用すると、お客様のデータ イーサネット ネットワークまたは音声イーサネット ネットワークに接続されている Cisco IP Phone が、自身の IP アドレスと設定情報を動的に取得できるようになります。DHCP では、クラスタの内部および外部にあるホスト名を Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) を使用して解決します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [DHCP モニタ サービスのアクティブ化 \(P.10-2\)](#)
- [DHCP モニタ サービスの開始 \(P.10-3\)](#)
- [DHCP サーバの検索 \(P.10-4\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-5\)](#)
- [DHCP サーバの設定値 \(P.10-6\)](#)
- [DHCP サーバの削除 \(P.10-7\)](#)

DHCP モニタ サービスのアクティブ化

DHCP モニタ プロセスをアクティブまたは非アクティブにするには、Cisco CallManager の Serviceability ウィンドウを使用します。サービスをアクティブにする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Serviceability で、**Tools > Service Activation** の順に選択します。

Service Activation ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 CM Services リストから Cisco DHCP Monitor Service を選択し、**Save** をクリックします。



(注) サービスがすでにアクティブになっている場合は、Activation Status が Activated と表示されます。

ステップ 3 サービスがアクティブになり、Activation Status 列にステータスが Activated と表示されます。



(注) DHCP モニタ サービスは、アクティブになると自動的に開始されます。サービスを停止、開始、または再起動するには、P.10-3 の「DHCP モニタ サービスの開始」を参照してください。

追加情報

P.10-8 の「関連項目」を参照してください。

DHCP モニタ サービスの開始

DHCP モニタ サービスは、Cisco CallManager Serviceability を使用してアクティブにすると自動的に開始されます。この項では、DHCP サービスを停止または再起動する手順について説明します。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Serviceability で、**Tools > Control Center - Feature Services** の順に選択します。

Control Center-Feature Services ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco CallManager サーバを Servers ドロップダウン リスト ボックスから選択します。

Cisco DHCP モニタ サービスが、Service Name 列の下にある CM Services のリストに表示されます。



(注) Cisco DHCP モニタ サービスを P.10-2 の「[DHCP モニタ サービスのアクティブ化](#)」に従ってアクティブにした場合は、Status が Activated と表示されています。

ステップ 3 Cisco DHCP モニタ サービスのチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 Cisco DHCP モニタ サービスを再起動する場合は、**Restart** をクリックします。

サービスが再起動し、Service Successfully Restarted というメッセージが表示されます。

ステップ 5 Cisco DHCP モニタ サービスを停止する場合は、**Stop** をクリックします。

サービスが停止し、Service Successfully Stopped というメッセージが表示されます。

ステップ 6 停止した Cisco DHCP モニタ サービスを開始する場合は、**Start** をクリックします。

サービスが開始され、Service Successfully Started というメッセージが表示されます。

追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

DHCP サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の DHCP サーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアントマシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > DHCP > DHCP Server の順に選択します。

Find and List DHCP Servers ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリストボックスを使用して、サーバを検索します。

ステップ 2 最初の Find DHCP Servers where ウィンドウのドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Host Server
- Primary DNS
- Secondary DNS
- Domain Name

2 番目の Find Servers where ドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



ヒント

データベースに登録されている DHCP サーバをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- Host Server
- Primary DNS
- Secondary DNS
- Domain Name

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する DHCP サーバ名をクリックします。

選択したサーバがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

DHCP サーバの設定

Cisco CallManager データベースに DHCP サーバアドレスを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **System > DHCP > DHCP Server** の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- DHCP サーバを追加するには、**Add New** をクリックします。
- サーバを更新するには、P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用してサーバを検索します。
- サーバをコピーするには、P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用してサーバを検索し、DHCP サーバ名の横にあるチェックボックスをオンにしてサーバを選択し、**Copy** アイコンをクリックします。

DHCP Server Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 10-1](#) を参照）。

ステップ 4 ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックして（または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックして）、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。


追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

DHCP サーバの設定値

表 10-1 では、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.10-8 の「関連項目」を参照してください。

表 10-1 DHCP サーバの設定値

Server Information フィールド	説明
Host Name	DNS サービスを使用している Cisco CallManager サーバのホスト名を選択します。  (注) 適切な Cisco CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、この設定をする必要があります。
Primary DNS IP Address	このフィールドには、プライマリ DNS の IP アドレスを指定します。
Secondary DNS IP Server	このフィールドには、セカンダリ DNS の IP アドレスを指定します。
Primary TFTP Server IP Address (Option 150)	DHCP のカスタム オプション 150 を使用すると、IP Phone が TFTP サーバにアクセスできるようになります。シスコでは、この方法をお勧めします。 このフィールドには、プライマリ Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IP アドレスを指定します。
Secondary TFTP Server IP Address (Option 150)	このフィールドには、セカンダリ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
Bootstrap Server IP Address	このフィールドには、ブートストラッププロセスの次のステップで使用されるサーバのアドレスを指定します。このフィールドは、TFTP サーバの IP アドレスとして使用することができます。また、次のブートストラップサービスを DHCP サーバが提供する場合は、DHCP サーバアドレスのデフォルト値として使用することもできます。
Domain Name	Domain Name には、ドメイン ネーム システムを通じてホスト名を解決するときに使用するドメイン名を指定します。
TFTP Server Name (Option 66)	DHCP オプション 66 を使用すると、IP Phone が TFTP サーバにアクセスできるようになります。 このフィールドは、TFTP サーバを指定するために使用します。このパラメータに設定できるのは、DNS 名またはドット付き 10 進 IP アドレス 1 つのみです。
ARP Cache Timeout	このフィールドには、ARP キャッシュ エントリのタイムアウトを秒単位で指定します。期間を 32 ビットの符号なし整数で指定します。
IP Address Lease Time	DHCP サーバは、このフィールドにある情報を使用してオファアのリース期間を指定します。期間を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。
Renewal Time	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが RENEWING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。
Rebinding Time (T1)	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが REBUILDING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。値を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

DHCP サーバの削除

DHCP サーバを Cisco CallManager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用して、DHCP サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する DHCP サーバを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして（または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして）、サーバを削除します。

Cisco CallManager は、サーバが使用中でない場合、そのサーバを削除します。サーバが使用中である場合は、エラーメッセージを表示します。



-
- (注)** 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Servers ウィンドウから複数のホストサーバを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。
-

追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [DHCP モニタ サービスのアクティブ化 \(P.10-2\)](#)
- [DHCP モニタ サービスの開始 \(P.10-3\)](#)
- [DHCP サーバの検索 \(P.10-4\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-5\)](#)
- [DHCP サーバの削除 \(P.10-7\)](#)
- [DHCP サーバの設定値 \(P.10-6\)](#)
- [DHCP サブネットの設定](#)

追加情報

- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「[ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル \(DHCP\)](#)」